

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

# 千尋の滝を調べて

一 湊小学校 四年

山路

未玲

千尋の滝が、いきおいよく流れている。私は、千尋の滝の水しづきが大好きだ。こちにもとんどきそう。あの大きな岩もてっかくて大好き。雨の日の千尋の滝も好きだ。それは、滝のりょうがたかさんになるからだ。ゴーゴーと音がする。七月十六日。私のたん生日に、いいいと千尋のたきに行った。私は、千尋の滝の山岩のは

く力におどろいて、つぶやいた。

「わあ、あの岩、すつごく大きいよね。」

すると、いいいは、なつかしそうに言った。

「昔から、千尋の滝は大きかのおい。」

「じゃあ、こうして、千尋の滝と、この名前に

なったの。」

私が続けて聞くと、やさしくおしえてくれた。

「あの横の大きな岩は、おびとん千枚ぐらい

あるんだぞ。それに、関係あるのかのお。

何でかね、それい上はいいいもし知らんよ。

No. 1

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

あ ああ、 そうなんだ。 じゃあ、 自分で予想して  
 みよう。 さ、 と、 「千」に 関係があるのか  
 もしれない。 よく分らない。 よし、 明日、  
 校長先生に きこう。  
 「校長先生、 しつ問してもいいですが。 どう  
 も、 「千尋の滝」は、「千尋の滝」とい  
 う 勿前 なんです。か。  
 校長先生は、 紙に 絵や 文字をかきながら、  
 「昔、 人が 手を 横にのばした 右から 左までの  
 長さ」を 「尋」と 言ったんだよ。 それで、 千  
 人の人が 手をつないだ 大きさが、 滝が 流れ  
 ている 左の あの 大きな 岩なんだよ。  
 と 分かり やすく おしえて くれた。 た。  
 「だから、 千尋の滝」と いうんですね。  
 「昔の人は、 それを じょうき 代わりに してい  
 たんだよ。 よく 考えて いるね。」  
 私は、 千人の人の 思いも つかって いる 勿前 だ  
 と思っ て、 さらに、 千尋の滝の ことが すきに  
 なった。 じゃあ、 あの くらい の 長さ が ある の だ  
 う。 私は、 今度は 岩の 長さ が 気 にな った。

No. 2

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
- 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

よし、はかってみよう。  
教室のろうかに出て、手を広げてはかってみた。千回はびきないので、まずは、十回分横歩きした。友達に手伝ってもらうと、十一メートルだった。これを百倍にして千メートルになる。

「こんな長いんだ。千尋の滝って大きいね。実さいには、ことなには長くないそうだな。千尋の滝のことがたくさん分かったぞ。私は、走って家に帰った。」

「いいい、千尋の滝のことがわかったよ。千人の人が手をつないだくらい大きいという意味があるんだって。」

「ほお、未玲、よう調べたなあ。」  
千尋の滝の名前や長さを調べてよかった。

私は、また千尋の滝に行きたくなった。今度行ったときは、してはいけないうえ、すべり台のように、あの岩をすべってみたい。  
「いいい、来年のたん生日も、千尋の滝に行こうね。また、連れて行ってね。」

No. 3

3 詩ほどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

